



機能性育種～効率が良い！

効率はコストに直結します

- ・ 生育・開花スピード
- ・ 必要加温温度
- ・ 栽培・陳列面積
- ・ ロス率

同じ効率でも、その要因は様々です。
同じに見えて実は違う、効率性を持った品種を
採用することで、コスト削減に貢献します。

開花スピード～栽培日数を短縮します



仕込みから、出荷、開花までの期間が短い品種は、管理コストの削減につながります。栽培期間と品質が必ずしも一致するわけではなく、用途に合わせた品種選定をオススメしています。

パンジーの各シリーズのやさしい図説、デルタスピーディー詳細は別のページを用意しています。

栽培コストは栽培日数の影響を受けます

低温生育性～重油代を節約します

春の植物は冬の仕込みが必要なため、重油コストがかかります。
トップスピシリーズはベゴニアセンパフローレンスの中で、最も
低温でも生育しやすいシリーズの一つです。



3/27撮影



4/6撮影

いずれも
左がトップスピ
右が従来品種

栽培コストは栽培温度により変わります

コンパクトさ～面積効率だけではない効果があります

遺伝的にコンパクトな品種は少ないスペースで栽培できます。
結果として、同じ面積でも多くのポットの栽培が可能です。

また、ピンチ回数が少ない、わい化剤散布のテクニックが不要など、省力化・高品質にもつながります。

陳列効率が良くなる、少ないわい化剤により、活着がスムーズになるなどの効果も期待されます。

株姿が美しくなりやすい、限られたスペースで楽しめるなど、エンドユーザーメリットもあります。



ペンタス'ハニークラスタ'



ペチュニア'ダマスク'

コンパクトさは作業性、美しい株姿にも寄与します

ロス率～面積効率、種苗費、労務費に直結します

発芽率、成苗率が高い品種は最終製品1ポット当たりの種苗費を下げる
ことが可能です。

逆に、栽培の途中で病気が出やすい、ばらつきにより製品にならない
などによるロスは種苗費だけでなく、栽培コストを無駄に費やすこと
になります。

シンジェンタの商品の多くはロスが少ないことに定評があります。
また、発芽率の向上を育種・採種だけでなく、プリノバの開発など
新規テクノロジーによりサポートしています。

ロスの軽減は種苗費以上の効果があります

効率はコストに直結します

- ・ 生育・開花スピード
- ・ 必要加温温度
- ・ 栽培・陳列面積
- ・ ロス率

見た目だけでは分からない効率性があります